Medicine for the last mile

～すべてのアフリカの人々に健康と笑顔を～

NPO法人 AfriMedico

年次報告書　2017

2017年4月～2018年3月

AfriMedico

私たちのmission

私たちは**“Medicine for the last mile”**をスローガンに、**「医療を通じて、アフリカと日本をつなぎ、健康と笑顔を届ける」**ことをミッションとしています。

私たちの活動

私たちはアフリカと日本で以下の活動を行っています。

- 日本発祥の置き薬事業の普及により住民のセルフメディケーションの促進
- 住民への医療知識の教育
- 医療環境調査による適切な現状把握
- 日本イベント・セミナーでのアフリカ課題の啓発活動

置き薬で救える命をとりこぼさないことを目指し、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）ーすべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられることーに貢献していきます。

代表理事挨拶

ご支援を頂いている皆様へ

2017年度も多大なご支援を頂き、誠にありがとうございました。NPO法人を設立して４年目に突入しました。

「石の上にも3年」の言葉通り、少しずつ成果が出てきており、タンザニアでの置き薬も100世帯に届けることができました。それも皆さま一人ひとりのご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

しばらく現地を見ていなかった私には、設置された置き薬が村の人々に本当に役に立っているのかと少し不安がありました。しかし、2018年2月の現地訪問時に村の村長やリーダーと話し合った時、彼らは「薬はとっても役立っている、薬が身近にあると安心する」と日本で置き薬を置いている方々と同じようなことを言ってくれ、とても安心しました。さらに「医療教育にも力を入れて欲しい」という要望があり、我々はさらに教育にも力を入れています。薬を置くだけではなく、この薬の飲み方やこの薬を飲まなくてもすむ予防法などを伝えることで、村の人々と一緒に、村の健康と笑顔を守っていきたいと思います。

また、日本では「ＮＰＯとしての働き方改革」に着手しています。メンバー全員がパラレルワークである状態でそれぞれが仕事を抱える中、本当にすばらしい結果を残してくれています。一方で、メンバーの家族にもきっと負担がかかっていることでしょう。そんな中でＮＰＯの組織として、どうすれば少しでも負担を減らせるか？家族も本人も楽しく活動ができるか？を議論してアクションを起こしています。これから将来の働き方の１つのロールモデルになれるように組織として強化していきます。少しでもご興味のある方は、定期的に説明会を実施しておりますので気軽に遊びに来てください。とても面白いメンバーが集まっています。
本年度は、上記に記載した医療教育、そしてＩｏＴの導入によりさらに現地での活動がスムーズに動けるようにサポートしていきます。
AfriMedicoに関わる全ての人に健康と笑顔が届けられるよう活動して参りますので、どうぞ本年度もよろしくお願い申し上げます。

2018年6月
代表理事 町井恵理

町井 恵理

活動総括

2017年
4月　5月　6月　7月　8月　9月

置き薬事業

ブワマ村で置き薬ステーション・事業の継続

2017年度第1回
現地訪問

置き薬のさらなる普及のため、管理人への営業・顧客管理などのノウハウ教育
現地薬局での多い疾患などニーズ調査実施

2017年度第2回
現地訪問

イベント登壇

★AfriMedico総会

★DODAソーシャルキャリアフォーラム

★グロービス大阪校登壇

★杉並倫理法人会

★ホリエモンチャネル出演

★ソーシャルビジネス課題解決ワークショップ

★TSG2017プレイベント「パパママ起業のリアル」

★富山・ミャンマー　伝統医薬品・プライマリーヘルスケアシンポジウム2017　於　富山大学

★Schoo「GENNAI 2017」"さらに女性が活躍する社会をつくるために"

10月　11月　12月　2017年 1月　2月　3月

置き薬事業

ブワマ村隣村のムレゲレ村へ置き薬事業展開
地域拡大
ムレゲレ村村長・リーダー、新たな管理人へ置き薬システムを説明、導入開始

2017年度第3回
現地訪問

置き薬100軒設置達成
IoT仕組み、医療教育導入開始
現地パートナー企業探索

イベント登壇

★タンザニア置き薬進捗報告会

★DODAソーシャルキャリアフォーラム

★AfriMedico戦略合宿

★かものはしプロジェクトクロストーク

★グレイスサロン・チャリティパーティ

★第一回　日経ソーシャルビジネスコンテスト　海外支援賞受賞

★Startup Hub Tokyo

★TedExNamba Youth

***上記以外の登壇・イベントも含め合計2000名以上の方にAfriMedicoの活動とアフリカの医療の現状を伝えることができました**

海外での活動実績：
タンザニア置き薬事業

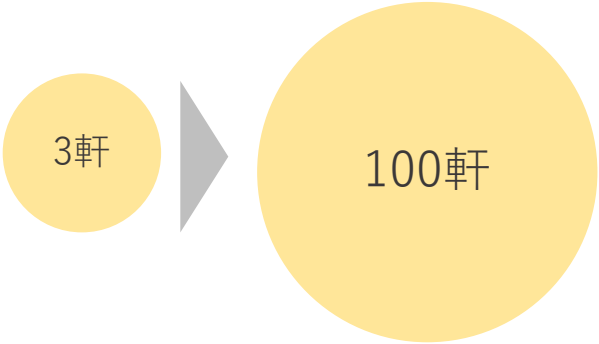
私たちAfriMedicoが現在活動しているタンザニアでは、予防・治療可能なマラリアや肺炎、下痢などで、毎日270人の子どもが命を落としています*。私たちはで置き薬で救える命を取りこぼさないことを目指し日々活動しています。

（*UNICEFより）

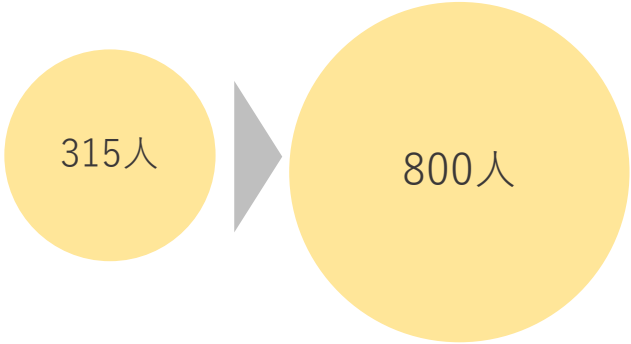
置き薬事業の継続・拡大

2017年度は2016年度に初めて開始したタンザニアの置き薬事業を試行錯誤を重ねながら一歩ずつ前に進んでいった年でした。

＜置き薬設置家庭数＞



＜薬を届けられた人々＞



1. ブワマ（Bwama）村での進捗

昨年度5月にはじめて置き薬事業を開始し、住民の声にこたえて2017年1月に置き薬ステーションを開設したブワマ村。タンザニア中心地ダルエスサラームから車で2～3時間に位置しています。農業が主要産業であり未電化であり上下水道も整備はされてないなどまだまだインフラが行き届かない地域ではありますが、子供たちは元気に走り回り、笑顔が満ちた穏やかな生活をしています。しかし、一番近いクリニックまで歩いて一時間以上かかるため、乗合バスやバイクタクシーを使うなど、時には薬や診療代よりも高い交通費がかかることがあります。

ブワマ村の子どもたち

置き薬ステーションには置き薬マネージャーのムトロが常駐し、ブワマ村の人たちが具合が悪くなったときにどの薬を飲めば良いか、また、症状に関するアドバイスを受けることができます。同時にマラリアなどの感染症にかかっているかどうかの検査を受けることもできるので、村人にはマラリアかな？と思ったらまずは置き薬ステーションにくる啓蒙活動を行っています。

←置き薬マネージャームトロと置き薬ステーション

海外での活動実績：タンザニア置き薬事業

置き薬ステーションで打ち合わせのヒトコマ
左から理事青木、奥田、ボランティアメンバーのゴ
ゴ、置き薬マネージャーのムトロ
机の上には顧客台帳ファイル

置き薬ステーションと各家庭の配置を開始しましたが、家に薬を常備する習慣のない村人に置き薬のよさをわかってもらうには一朝一夕にはいきません。私たちは日本の配置薬会社様のノウハウや富山置き薬の歴史を参考に、置き薬マネージャーへのマニュアルや、「掛場帳」と呼ばれる顧客台帳などを現地版にして仕組みを導入していきました。

2.　新たな村、ムレゲレ（Mlegele）村への展開

ブワマ村の置き薬マネージャーのムトロが隣村へ置き薬システムを宣伝してくれ、新たな村、ムレゲレ村での置き薬事業が2017年10月より開始されました。

ムレゲレ村は300世帯、約1500人の住民が住んでいます。タンザニアでは300世帯を超えると地区から村に昇格する制度となっており、私たちが訪れた翌週の10月1日に村民全員参加の会議で村昇格が通知されました。9月下旬に村長に置き薬を導入相談をしたときには「一番近い病院までは乗り合いタクシーもないので、置き薬はとても助かる」と快諾をいただき、1日の村民会議で村長から村民へ置き薬を案内してもらいました。

ムレゲレ村村長、リーダーに置き薬ボックスを手渡す

写真前列右から理事山口、ムレゲレ村の置き薬マネジャーソフィア、タンザニア現地メンバーゴスビー、代表理事町井、ムレゲレ村長、その他リーダーたち

ムレゲレ村の置き薬マネージャー、ソフィア

ムレゲレ村の置き薬マネージャーはコミュニティヘルスワーカーで看護師の資格も持つソフィアに決まりました。快活な女性で、置き薬の村人への説明デモンストレーションもばっちりで、日々精力的に活動してくれています。

3.　医療教育とIoTの導入

私たちは置き薬を通じてアフリカの人々のセルフメディケーション、自分自身で健康を管理して治癒をしていくことを推進していきたいと考えています。そのためには予防も含めて医療や薬の知識をつける教育も重要と考えています。2017年度はまず以前町井がニジェールの協力隊時代に使っていた紙芝居をタンザニア版・置き薬版にアレンジして導入しました。今後現地のニーズにあわせて様々なコンテンツを充実していきたいと考えています。

紙芝居のストーリーをソフィアに説明する町井

撮影をするソフィア

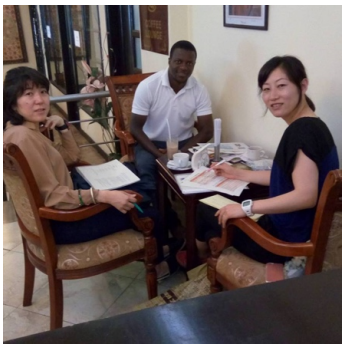
IoT置き薬のスタートとしてスマートフォンで置き薬ボックスの写真をキャプチャし、クラウドサービスと同期し、日本からでも現地とシームレスにつなげるオペレーションを開始しました。

今後は現地とともにトライアルとPDCAを回していきながらより効率的かつ安定したプロセス構築とシステムを導入していく計画をしています。

→クラウドにあがってきたマラリア検査キットの写真

4.　現地政府機関とパートナー候補企業の探索

現地にニーズがある日本の医薬品を申請して“アフリカと日本を繋げる”ことを前に進めていくために、現地政府機関であるTFDAとの対話をかさねています。またタンザニアの製薬企業やディストリビューターを訪問し、日本の薬剤申請に向けての必要な準備を進めてまいりました。



現地協力者ジェフリーとの作戦会議

国内での活動実績

置き薬のふるさと富山へのスタディツアー

↑昔の丸薬つくりを体験しました！
きれいな丸にするのが難しいです。

2016年度末にクラウドファンディングReadyforでご支援いただいた方たちと一緒に桜の季節に置き薬のふるさと富山にスタディーツアーにいきました。老舗和漢薬種問屋の池田屋安兵衛商店で丸薬製造体験、廣貫堂資料館で江戸城腹痛事件など置き薬の歴史を勉強しました。

江戸城腹痛事件

メディア掲載

今年も多くのメディアにAfriMedicoの活動を取り上げていただきました。

17年5月　ホリエモンチャネル出演

- 首相官邸HP：日本発祥の「置き薬」でアフリカ奥地の医療改善を目指す
- 月刊「潮」2017年8月号：時代を拓く「女性力」 町井恵理 VS 田原総一郎 日本の「置き薬」をアフリカの村へ
- オンラインカンファレンスSchoo GENNAI 2017：さらに女性が活躍する社会をつくるために
- まいなび転職Global:キャリアとしての青年海外協力隊

など23件

活動報告会の開催、各種セミナーへの登壇

AfriMedicoの活動やアフリカの医療課題をより多くの方に知ってもらうため、国内でセミナーやイベントを行っています。また、様々なNGOが参加する交流会や国際協力関連の学会にも参加し、積極的な情報発信を行っています。

2017 年11月「タンザニア置き薬進捗報告会」
参加者のみなさんと“未来志向ワークショップ”をおこない、現地の置き薬の仕組みをどう発展させるかアイデア出しをしました。このときのアイデアが現在のIoT導入開始につながっています。

2017年6月富山大学で開催された富山・ミャンマー　伝統医薬品・プライマリーヘルスケアシンポジウム2017にて町井が登壇しました。
ほかの国での事例を参考にアフリカでもいかしていきたいと思います。

2018年3月、大阪出身の町井はTEDxYouth@Namba 2018 -爆発-に登壇しました。若いパワーと様々なアイデアにふれ、大きな刺激を得ました。

ご支援いただいたみなさま

支えて下さった企業・団体の皆様

置き薬システムをアフリカへ導入し、医療環境が整わない場所へ薬を届けるには、AfriMedicoだけの力では足りません。私たちは活動に賛同してくださる企業・団体からたくさんのサポートをいただいております。改めて御礼申し上げます。

大鵬薬品工業様の創立55周年記念イベントにて記念チオビタとともにご寄付をいただきました。

*五十音順・敬称略

- 株式会社廣貫堂
- 株式会社セールスフォース・ドットコム
- 大鵬薬品工業株式会社
- 株式会社中京医薬品
- 日本万国博覧会記念基金
- 日本マイクロソフト株式会社
- 布亀株式会社
- freee株式会社
- 株式会社ポラリス
- 株式会社メンタルポジション
- リコー社会貢献クラブ　Freewill

受賞のご報告

昨年度に引き続きAfriMedicoの活動に対して大きな評価を頂くことができました。これらを励みに置き薬事業の拡大に向けて着実に進んで参ります。

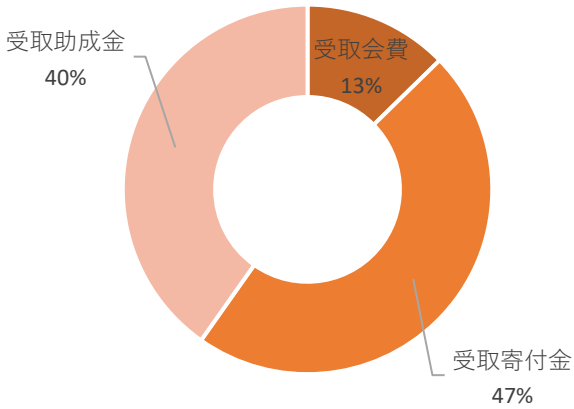
第一回:日経ソーシャルビジネスコンテスト：海外支援賞受賞

SDGsの普及、促進のため開催された第一回日経ソーシャルビジネスコンテストでは「SDGsに定められた17の開発目標を意識したソーシャルビジネス」が応募テーマとして設定され、1. 社会性、２.事業性、3.革新性を評価いただき、総応募数252件があったなか、栄えある海外支援賞を受賞いたしました。いただいた賞金をもとに現地のIoT置き薬化を進めてまいります。

財務報告

Ⅰ 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費	410,000	
2. 受取寄付金		
受取寄付金	1,522,106	
受取助成金	1,300,000	
3. その他収益		
受取利息	30	
	経常収益計	3,232,136
Ⅱ 経常費用		
1. 事業費		
（1）その他経費		
外注費	579,859	
旅費交通費	512,749	
海外出張費	1,887,563	
広告宣伝費	106,165	
支払手数料	23,722	
交際費	20,672	
会議費	111,979	
	事業費計	3,242,709
2. 管理費		
（1）その他経費		
地代家賃	64,800	
情報通信費	55,861	
帳簿文具費	90,195	
荷造運賃	14,560	
諸税印紙	35,609	
保険料	6,560	
	管理費計	267,585
	経常費用計	△278,158
	当期正味財産増減額	△278,158
	前期繰越正味財産額	2,593,930
	次期繰越正味財産額	2,315,772

2017年度収入の内訳



マンスリーサポーターやAfriMedicoの活動を知って個人でご支援いただいた寄付者の方、企業様よりの寄付、助成金をいただき、昨年度よりは減額したものの活動に必要な資金を得ることができました。次年度も引き続き、より多くの方々に私たちの活動を伝えていきたいと思います。

監査報告書

2018年5月31日

NPO法人　AfriMedico
代表理事　町井　恵理　様

監事　蒲地　正孝

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2017年度（2017年4月1日から2018年3月31日まで）の事業報告書及び計算書類（財産目録、貸借対照表及び収支計算書）について監査を行った。

私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し必要と認める場合には質問を行った。また、経営の状況及び財産の状況に関する監査に当たっては、証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、法人の業務は法令、登記予定の定款及び2017年度の活動方針、事業計画に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって、私は、上記の事業報告書及び計算書類が、特定非営利活動法人であるAfriMedicoの2018年3月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財政状態を適正に表示しているものと認める。

以上

お知らせ

AfriMedicoは組織の理念に賛同し、活動に参加・支援してくださる方を随時募集しています。

参加の方法

①寄付をする
AfriMedicoは任意の額のご寄附を随時受け付けています。ご寄付は下記の口座にお振込みいただくか、下記URLよりクレジットカードで決済ください。

URL　:http://afrimedico.org/donation/

銀行名：楽天銀行　　**第一営業支店**（251）
口座番号：　7597662　　**口座名：アフリメディコ**

■ マンスリーサポーター　月々500円～
■ 今回だけの寄付　1000円～

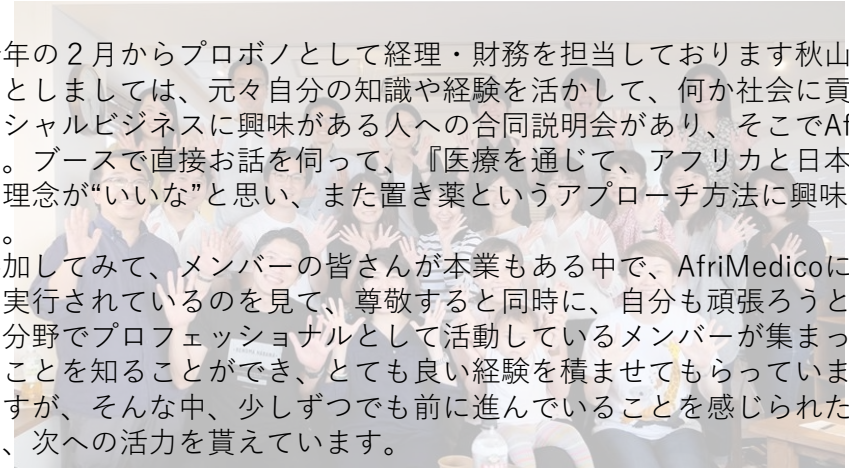
■ モノで寄付をする“お宝エイド”：
書き損じはがきや、使わなくなった貴金属、書き損じはがきや切手などを送ることで寄付ができます。詳しくは下記URLを参照ください

http://otakara-aids.com/program/afrimedico.html

②会員になる
AfriMedicoは私たちの理念・活動内容にご賛同いただける個人・企業の方々を広く募集しています。定期的な活動状況の報告、シンポジウ ム・講演会・イベントなどの優待など会員特典が多数あります。
■ 正会員（個人） 入会金5千円 年会費1万円
■ 正会員（団体） 入会金1万円 年会費1口5万円

③プロボノ・ボランティアとして活動する
AfriMedicoの理念に賛同し、ともに活動してくれる方を募集しています。私たちはメンバー全員がパラレルワークとして本業をほかに持ちつつ“働きながら社会を変える”という志で活動しています。活動に興味のある方はafrimedico@afrimedico.org までご連絡いただくか、入会説明会にご参加ください。

Voice from Pro bono -プロボノの声-



はじめまして。今年の２月からプロボノとして経理・財務を担当しております秋山と申します。
　活動のきっかけとしましては、元々自分の知識や経験を活かして、何か社会に貢献したいな、と思っていたところ、ソーシャルビジネスに興味がある人への合同説明会があり、そこでAfriMedicoが経理担当を募集していました。ブースで直接お話を伺って、『医療を通じて、アフリカと日本をつなぎ、健康と笑顔を届ける』という理念が“いいな”と思い、また置き薬というアプローチ方法に興味を持てたことから、参加を決意しました。
　実際に活動に参加してみて、メンバーの皆さんが本業もある中で、AfriMedicoにおいてもコミットしたことをしっかりと実行されているのを見て、尊敬すると同時に、自分も頑張ろうと良い刺激を受けています。また、各々の分野でプロフェッショナルとして活動しているメンバーが集まっているため、議論の中で多角的に色々なことを知ることができ、とても良い経験を積ませてもらっています。まだまだ課題も多い状況ではありますが、そんな中、少しずつでも前に進んでいることを感じられた時は、ちょっとした喜びを感じると共に、次への活力を貰えています。

プロボノ　秋山義之

E-mail : afrimedico@arimedico.org

Web site : http://afrimedico.org

Facebook:www.facebook.com/afrimedico

発行：2018年6月

NPO法人 AfriMedico